

令和8年度秋田大学大学院医学系研究科
医学専攻（博士課程）入学試験
（1回目）

小論文

令和7年9月2日（火）（12:40～14:10）

試験終了後、解答用紙のみ提出してください。

監督者の指示があるまで、問題を開かないでください。

問題用紙	3枚
解答用紙	2枚

I 以下の文章を読んで問いに答えなさい。

(本文省略)

(本文省略)

(本文省略)

<出典：田中智之著（2025.07）「研究不正の蔓延」『世界 SEKAI』No.995, pp.180-188
より抜粋，一部改変>

問1 下線(1)とはどのようなものか。40字以内で述べなさい。

問2 研究不正における下線(2)の問題点とその対策に対する筆者の考えを150字以内で述べなさい。

問3 下線(3)に関して筆者の考えをまとめた上であなたの考えを300字以内で述べなさい。

令和8年度秋田大学大学院医学系研究科
医学専攻（博士課程）入学試験（1回目）

小論文

解答・解答例，配点

問1 下線(1)とはどのようなものか。40字以内で述べなさい。

配点：20点

解答例：インパクトファクターなど定量的な評価だけに頼った研究及び研究者評価
(33字)

問2 研究不正における下線(2)の問題点とその対策に対する筆者の考えを150字以内で述べなさい。

配点：30点

解答例：専門家でも気づくことができない水準の捏造論文が、驚くべきスピードで量産される。更に公開された論文の矛盾点やデータの不自然さなどで指摘することが困難で、そのような破綻が不正論文に含まれることが期待できない。よって公開後評価である出版後査読への移行や内部告発者の保護強化が必要となる。
(140字)

問3 下線(3)に関して筆者の考えをまとめた上であなたの考えを300字以内で述べなさい。

配点：50点

解答例：筆者は実験記録や資料の保存，ビッグデータの公開など「共有性」の重要性を説き，公益性担保のためのインセンティブやペナルティの強化，内部告発者の保護の重要性にも言及した。最後にメディアや社会の在り方，SNS発信による科学者の可視化も重要であると論じた。研究不正防止には当事者側の態度と，取り巻く環境による抑制の両面が存在し，意識改革と共に社会のリテラシーが問われていると感じた。また研究倫理を学ぶ機会の提供や定量的業績にとらわれない研究の評価に関しては国や大学などの役割が大きくなるのではないかと考えた。私自身は研究を行うにあたって不正を行わないために，経験的事実の重視や新たな事実に基づいた仮説の修正を心がけたい。
(300字)